

さくらみ川



地域防災へ更なる誓い！ ポンプ積載車両安全祈願祭

角田市消防団第2分団2部1班(行政区枝野3区)に新たにポンプ積載車両が配備され、穴戸正一班長以下団員3名と中野幸寿区長が参列し、安全を祈願しました。消防団は地域防災のかなめ。今回の配備でさらに迅速な対応ができるものと期待されます。班長は「あくまで予防消防が重要。この車が緊急出動することが無いよう努力したい。」と真剣な面持ちで話されました。これから春にかけて火災の多い時期です。団員の努力に報いるよう、各自が火災予防に努めたいものです。

第四号

平成一五年一月一日

熱日高彦神社社務所

TEL: 六二〇二四一 FAX: 六二四八六一
Eメール: atuhitaka@hitaka.org

挨拶 未年ひつじに思おもつ

宮司 黒須主計

明けましておめでとございませう。

今年は無年「羊年」です。羊のようにのんびりと、毛織物や毛皮に包まれて暖かく暮らせる年なのでしょう。急速な経済の上昇と下降にはこりている私たちには、ゆっくりでいいから安定した復興を祈りたいと思います。

正月らしくない話で恐縮ですが、羊毛の産地カシミールでは常に争いが絶えません。また羊年を迎える前、既にアラブを巡って一触即発の事態になっております。こうした緊急事態に臨み、日本は常に瞬発力が悪く、国外、国内の対外問題にてこずってききました。

弱い野生の草食動物は高性能のアンテナを以って危険を予知し、迷わず瞬時に防衛の行動をとります。それが出来なければ種の絶滅です。幸い羊のように利用価値の高い場合に限って、檻の中に飼われ、命を預けて暮らすことが出来るのです。さて日本はどこかの国から威嚇されどおしで、どこかの国の檻に入れられていませんか。

戦後掲げてきた一國平和主義にはどこかまやかしがあるのではないかと気づいてきた人も多いのではないのでしょうか。羊のように檻の中の平和を求めるのではなく、少々の危険は伴っても、野生に戻りたいですね。

今年はそのような努力をする事によって、真に「お目出度い」年にしたいものであります。

午前〇時に歳旦祭

新年の平安を共に祈願いたしましょう

年の改まる午前〇時、本殿において歳旦祭を斎行致します。

昨年同様、元朝参りの皆様にも昇殿参拝いただきます。新しい年の国の安泰と国民の安全、特に豊かな稔りと氏子崇敬者の幸福を心一つにお祈り下さい。参列ご希望の方は早めにご参集願います。なお、防寒対策は致します



が暖かくしてお参りください。

併せて一番祈禱を致します。別紙案内をご覧のうえ大晦日までにお申込みください。

また、本殿横に御神酒所・授与所を開設いたします。新年の

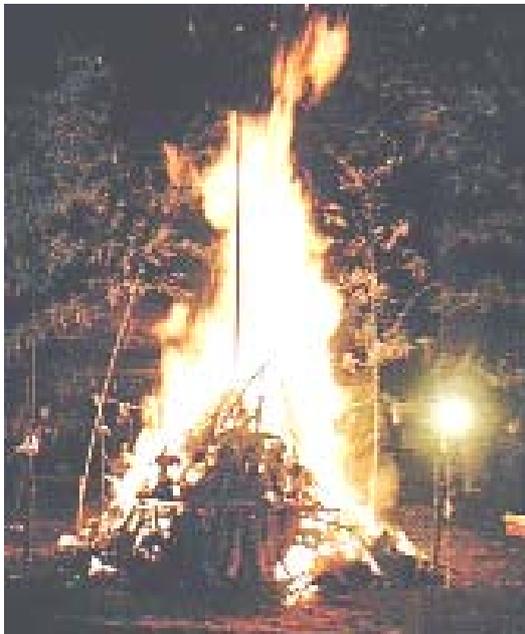
神札・お守り・破魔矢・絵馬などお受けください。
初詣は、ご家族そろってご参拝いただきませうとお待ち申し上げます。

環境にやさしい斎火祭を

斎火祭(とんど祭)は例年のとおり正月十四日夕刻に斎行いたします。和紙燈籠の奉納や授与所開設を予定しております。

ダイオキシンの害が言われる中、当社では斎火祭の際にビニールなどを回収する場所を設け、総代や有志協力者が分別を呼びかけてまいりました。皆様のご理解とご協力をいただき、定着してきたようです。環境を守り、楽しい正月行事を続けて行くために、今年もご協力をお願いします。

ちなみに当社では、お守りなどにはできる限り天然の材料、燃やしても有害物質が発生しない素材を使用するよう配慮しています。



ひな祭に人形供養のお祭り

三月三日、桃の節句のひな祭に併せ人形供養のお祭りをする予定であります。

最近古い人形や玩具をお焚き上げしてほしいという問い合わせが増えていきます。生活の豊さに比例して、子供のおもちやも増えるいっぽう。処分しようと思っても、やはり愛着がわいたり思い出があったりで、ゴミに出すのは忍びない、というところでしょう。特に人形は可愛ければそれだけ魂もこもるようで、なおさらです。

ひな祭の古いかたちに「流しびな」があります。小さな紙のひな人形を川に流すのですが、これは人形(ひとがた)にそれまでの自分の良くなかった事(子供であれば悪戯や病氣)を託してはらい去る、「被い(はらい)」の神事でありました。このことから、各地の神社で時期を決め人形供養祭やお炊上げが行われています。

当社では節句当日、日供祭に併せひな祭を奉仕してありますが、今年節句に近い休日に入形供養のお祭りも合わせたかたちで斎行したいと考えています。不用な人形やおもちやを持ち寄って納める子供主体のお祭にし、まだ使えるおもちゃの交換や、流しびなもできればと思っております。



神社マメ知識

○榊について

祭には欠かせない「榊」 見るからに神様の木です。

これを「サカキ」と言うのは、神域と俗界を分ける「堺木」、或は褒め辞「栄木」が転じたとも言います。東京から南の神社の境内にはサカキの他にクスやタブ、シイ等、それより北ではカシ、スギ、ヒノキ、カヤなどの常緑樹が多く見られます。生命力溢れる樹に神様が宿ると考え、その代表の榊を家庭などでも用いています。

「榊」は庭に植えたり、花屋さんで買ったりますが、当地で多く売られているのは、葉の縁にぎざぎざのあるヒサカキです。これに対してサカキ、いわゆる本サカキの縁はすべすべです。当地にヒサカキが多いのは、比較的寒さに強いからで、岩手県南部ぐらいまで行きます。

農協祭などでも本サカキは売られるようになりまし。しかし今でも榊の入手に難のある地方では、カシやヒノキの枝を使ったりしています。



○ハラオクリ

暮れに御札をお配りする時、併せてハラオクリの初穂料もお納めいただいておりますが時々「ハラオクリって何？」と訊かれます。

ハラオクリとは「被え送り」が縮まったもので、夏を越える頃行つ、害虫や疫病を追い払つお祭りです。そのおしるしが春の区会等に配られる「疫病退散」の御札です。本来は祭のあと、秋のケイヤクや区会が配られたのですが、大方のケイヤクや区会が春だけ一回になったので、お祭に先行して御札が配られる状況になっています。ハラオクリの初穂はこの祭典へのお供えなのです。ちなみにその御札は戸口に貼り厄難除けとしてきました。

ところで、ハラオクリは面白い習俗も伴っていたようです。古老に訊いたところでは、大きな藁人形を作り、それを担いで部落内を練り歩き、堺の川原で燃やしたのだそうです。部落内の災いを被え送る意味だったのでしょう。これと良く似たものに金津七夕のカラオクリ、弘前のネプタ、秋田の竿灯などがあり、いずれも本来の意味は共通しています。

お日高さんの自然

正月用植物考 ヤブコウジのなかま

今、神社の杉林の下にはつつましく赤い実をつけた小低木のヤブコウジが群生しているのが見られる。

ヤブコウジ科に属し七月八月ごろ白っぽい花を咲かせ、花が終わると緑から赤い実に



なり冬には特に目立つ。自然林の中では実をつけているものは少ないが、鉢植えで育てるとなぜか実をつけるものが多くなる。日照の多少に関係するのだろうか？

このヤブコウジ(十両と呼ぶこともある)も鉢植えや生け花の脇役にし、正月縁起植物として使えるが、一般的にはマンリヨウ(万両)やセンリヨウ(千両)、カラタチバナ(百両)が使われてきた。しかし、いずれも暖地性で東日本には自生しない。実生で増やすにはゼリー状の果肉を取って蒔くと発芽率が良いようである。

かつては、正月用縁起植物として数々の品種が作られ広く持て囃された。現在、白い実をつけるものや縮れ葉のものが売られているがその名残である。

マンリヨウやカラタチバナはヤブコウジ科で木(本)に分類されるが、センリヨウはヒトリシズカと同じセンリヨウ科に属し、草(本)のなかまである。

この頃の世の中を思うとき、これらの植物を手元に飾り、静かに年の瀬を迎え、来たる年の幸せと景気回復を願いたいものである。

(文/小島和夫氏)

社頭 あれこれ

今年も総代さん大活躍

総代による奉仕作業が、今年も十一月十日に実施された。今回は昨年間伐してあつた杉の丸太を引き下ろして積み上げ、さらに東斜面を間伐した。境内林が整然とし、境内の風通しも良くなったよう。丸太は製材して次年度事業に使う予定。

さらに、十二月八日、追加作業として積み石の移動作業も奉仕された。石は鳥内の森 隆さんから奉納されたもので、支障の無い場所にまとめて仮置きした。



- 〓ご奉納〓
- 二区 森 隆さん 積み石
 - 各区総代各位 新嘗祭神饌(野菜)
 - 二区 目黒のぶ子さん 新嘗祭神饌(果物)
 - 小斎 黒須清光さん 新嘗祭神饌(鳥)
 - 一区 佐藤庄一さん 新米
 - 二区 佐藤善一さん 新米
 - 相馬 渡邊京子さん 手水舎手拭一式
 - 一区 齋藤公一さん 野菜

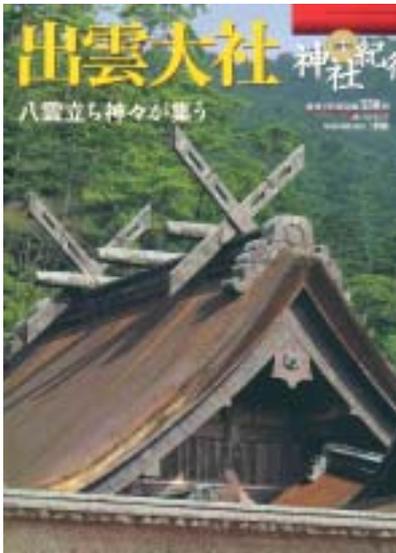
〇見ましたか 聞きましたか
 神社振興CM放送中!
 宮城県神社庁では次のとおり神社振興のCMを放送しています。

・TBCテレビ「おはようグッデイ」
 (月)金 午前6〜8時半放送
 毎週月・水曜日6時15分ごろのニユー
 ス提供放送

・TBCラジオ
 (年末シリーズに当神社禰宜出演)
 毎週金曜日 終日十二回放送

また、『産経新聞』県内版でも毎週火曜日に「神社物語」というシリーズで県内各神社の紹介記事が掲載されています。どうぞご利用下さい。

〇神社関係図書紹介
 ・週間『神社紀行』
 学習研究社 定価560円



全国の代表的な神社を、毎週一社(刊)によって複数)ずつ紹介しています。紀行という

ことでガイドブック的ですが、記述は正確で歴史や習俗など多岐にわたり、オールカラーで大変読みやすく、楽しい内容です。価格も安価ですので、一度お手にとって見てみてはいかがでしょうか。全部で五十回配本予定価格に若干の違いあり。

社 頭 暦

- 一月 一日 歳旦祭 初詣
- 七日 七草
- 一月 四日 斎火祭 成人祭
- 一月 十五日 小正月 暁参り
- 二月 二十日 大寒
- 二月 一日 月次祭
- 二月 三日 節分祭
- 二月 四日 立春
- 二月 一日 紀元祭 建国記念の日
- 二月 一七日 祈年祭
- 三月 一日 月次祭
- 三月 二日 ひな祭 人形お焚上げ
- 三月 二二日 春分の日 祖霊祭 彼岸中日

《編集後記》

春季例大祭まであと三ヶ月となりました。今年はいよいよ日曜に当たることから盛大なお祭りとなります。お世話の方々がお声がけします。若い方々にもぜひ神輿渡御に参加いただき、島田の文化を継承していただきたいと思います。

ホームページでも読める <http://hitaka.org>